

## STAGE 14.“あなたは逃げてもいいんだ”1

話者	台詞 / ト書き
	■ライブハウス
テルミ	ここまで戻ってくるのも 重労働になっちゃったね、 【ユーザー名】……。
キョータロー	はは…… シャレにならなくなってきたな。 そこら中、敵だらけだ。
イオン	ふむ。わたし達を嫌うのは、 ウィークAIだけでは ないようですね。
ムツキ	ふふは、いいではないか。 ザコばかりではつまらん。 敵もファンも多ければ多いほどいい。
キョータロー	けどよ、セナ以外のACT使いまで こっちを睨んできやがるぞ。 逃げ場がねーよ、この街。
イオン	ふむ。アナテマに協力すれば、 ターゲットにされない。 それどころか——。
テルミ	アナテマは、レイヤードを破壊する 権限と力も与えてくれる。 メリットだらけに見えるよね。
キョータロー	お前、いまさらファン見捨てて あっちに着く気じゃねーだろうな？
テルミ	……あのさ。 あたしこう見えても、 ファンは売ったことないから。
キョータロー	……ワリ。 笑えない冗談だったな。 余裕ねーな、俺も。
テルミ	いいよ、別に。 あたしもなんか、 怒りっぽくなってる気がする。
イオン	ふむ……ユーザーさん。 このような戦いは、 なかなか慣れませんね。
イオン	アクトマキアで優勝したはずの 我々への評価も、賛否両論—— UNPLはまだ落ち着いていますが。
ムツキ	一部のレイヤード民には、 私達の戦いがこの混沌を招いたとも 思われているようだな。
イオン	ヴァルナカウンターに消された アーダル患者のアカウントも、 アナテマが甦らせている——。
イオン	——英雄となったユーザーさんは、 彼らの恨みを一身に受ける ことになりそうですね。
ムツキ	ふん、個人のせいであるものか。 レイヤードはいずれこうなった。 私達はその証人になっただけだ。
イオン	そうですね、ムツキ。 けれどもわたし達は、表舞台に 立った者としての義務があります。
ムツキ	——義務、か。 確かに、強者には強者の 義務が存在するがな。

ムツキ	人間に絶対服従するしかない お前達ACTには—— 義務しか存在しないだろうが。
イオン	……んむ？
キョータロー	その点、人間は自由だよな。 自分から凶悪な暴走ACTの 下っぱになっちまうんだから。
テルミ	ホントだね。 他人を呪うのは、この世で 人間だけって思い知らされるよね。
イオン	ふむ…… 人はどんな時代でも、 自由意思が好きですね。
イオン	ユーザーさんも、そうですか？ ACTにはない自由こそが、 人間の幸福の証だと？
	//選択肢 A まあ、そうかな B そうでもないよ
選択肢A	まあ、そうかな
イオン	自由な人間こそが幸福で、 不自由なACTは不幸。 そう感じるのでしょうか。
イオン	わたしはACTを人間の鏡として 意識しすぎることは、必ずしも 幸福ではないと思うのですが——。
選択肢B	そうでもないよ
イオン	なるほど。 ユーザーさんには、自由よりも 大切なモノがあるんですね。
イオン	わたし——ACTには、あります。 大切なかたを守ることは、 自由より幸福だと思いますよ。
合流	
イオン	それはそれとして、ユーザーさん。 状況は楽観視できません。 それでも、あなたは……。
	//メッセージのSE
イオン	お？ ユーザーさん、 トラブルシューターの 依頼が来ています。
イオン	ウィークAIの混乱に乗じて 暴れているACT使いへの対処。 ——ふむ、いつも通りですね。
テルミ	は？ こんな状況になってまで、 キミにそんな頼むんだ。
イオン	ユーザーさんは英雄ですからね。 その活躍で得た信頼は、 盤石にして鉄板なんです。
キョータロー	はは……少なくともヒロインには 信じられまくってるみたいだな、 【ユーザー名】。
イオン	信じますとも。 ユーザーさんは、わたしの期待を 裏切ったことなどありませんから。
イオン	さあ、行きましょうユーザーさん。 わたしとあなたなら、 どんな現実だって守れます。

話者	台詞 / ト書き
	//ACT使いとバトル
ACT使い	【ユーザー名】…… お、お前を倒せば、 俺だって英雄に……！
	//バトル終了

話者	台詞 / ト書き
	■渋谷 一街中■
ACT使い	ああ……せ、せっかく アカウントを取り戻したのに……！
キョータロー	……勝ったか。 お疲れ、【ユーザー名】。
テルミ	こんな戦いが、あと何度も……。
イオン	む。キョータロー、テルミ。 気落ちしてばかりでは いけませんよ？
ムツキ	イオンの言う通りだ。 最強への階段を登ろうとした 貴様らが、弱気でどうする。
キョータロー	……だよな。 コウヘイやカツマやミアラカも、 踏んばってるよだもんな！
テルミ	心配しなくても負けないよ。 せっかくだし、この機会に クリア姫より目立ってやるから！
イオン	ふふっ。ここに立つかたは 絶望から遠いようですね、 ユーザーさん。
??	うん、いい顔してるね。 ……さすが、ここまで 切り抜けてきた子たちだ。
テルミ	……！？
キョータロー	だ、誰だこいつ？ 人間……？ いや、ACTか！？
イオン	あなたはプレロマ……。
プレロマ	ここまで来ちゃったのなら、 私からも伝えられる。 知らないほうがいいんだけどね。
ムツキ	……デバイスにエラーが出ている。 話者認識機能が作動していない。
ムツキ	——貴様、何者だ。 いったいなにを知っている？
プレロマ	ごめんね、ムツキ。 その話は彼にしか出来ないんだ。 越えられるのは、彼だけだから。
プレロマ	【ユーザー名】。 世界が壊れた、今だからこそ 教えてあげられる。
プレロマ	——あなたが、 英雄になれた理由を。

## STAGE 14.“あなたは逃げてもいいんだ”2

話者	台詞 / ト書き
	■渋谷 テラスデッキー
プレロマ	うん……いい風だなー。 拡張された空気の抵抗。 涼しくて、いい感じね。
イオン	プレロマ。 言われた通り、わたしと ユーザーさんだけで来ました。
イオン	ユーザーさんに伝えたいことが あるみたいですが——それは、 どれほど重要な情報なのでしょうか。
プレロマ	……イオン。 あなたは最初から、気づいたでしょ？ 彼がどれだけ、イレギュラーか。
イオン	……。 イレギュラーなのは、わたしです。 ユーザーさんは——
イオン	——ユーザーさんは、不思議な人です。 知識の深淵を漂っていたわたしと、 この現実で、出会ってくれました。
イオン	わたしを見つけてくれた人も。 わたしを引いてくれた人も。 歴史には前例がありませんから。
プレロマ	あなたは『禁じられた永遠』—— 世界が真の変革を迎えたときにだけ 現れる、概念の根源だもんね。
イオン	む。今のわたしは『ヒロイン』ですよ、 プレロマ。 間違えないでください。
プレロマ	……そうだね、イオン。 ヒロインなら、彼の秘密を 一緒に抱えてちょうだい。
イオン	もちろんです。 ユーザーさんの人生は、 わたしが支えてみせますとも。
プレロマ	よろしい。 では、レイヤーを重ねましょう。
	//wiz-dom深部に变化
プレロマ	ここなら、静かに話を…… あれ？
イオン	むっ。 ウィークAIが侵入している みたいです、ユーザーさん。
プレロマ	あの子の妨害かしら。 それとも、これも演出かな。 ……哀しいなあ。
プレロマ	【ユーザー名】。 悪いけど、軽くお掃除して くれるかな？

話者	台詞 / ト書き
	//ウィークAIとのバトル
	//バトル終了

話者	台詞 / ト書き
ブレロマ	すごいわ。 本当に……残酷なぐらいに、 成長したんだね。
ブレロマ	ねえ……【ユーザー名】。 イオンと会う前に起きたこと。 あなたは、覚えてるかな？
	//選択肢 A なんの話？ B いきなり意識を失った……？
選択肢A	なんの話？
ブレロマ	憶えてないか……。 あなたがいたエリアで、 集団意識喪失事件が起きたでしょ？
選択肢B	いきなり意識を失った……？
ブレロマ	……そう。 あなたがいたエリアで、 集団意識喪失事件が起きたね。
合流	
ブレロマ	あの事件は、まだ原因すら 解明していない——いえ、世界は 謎のままにすることを望むでしょう。
イオン	世界が、謎を望む……？ もう、ほとんどのかたが 目覚めたんじゃないんですか？
ブレロマ	……うん。 だって、ほとんどのみんなは 『失敗作』だったから。
イオン	『失敗作』……？
ブレロマ	かつて、レイヤード開発者の ごく一部が、運営にも極秘裏に行った 無差別な人体実験の——ね。
ブレロマ	彼らの目的はひとつ。 ヒトの脳をクラウドと繋ぎ、 『新しい感性』を創造すること。
イオン	新しい、感性—— まさか、それはミアラカや 藤沼教授が提唱していた……。
ブレロマ	そう。渋谷の都市伝説では、 『エンパーセンス』、あるいは 『エンパー』と呼ばれている。
ブレロマ	彼らは人を人工的に『攪張』させ、 より高度なレイヤード社会を 確立させようとしたの。
イオン	……………。
ブレロマ	レイヤードの理想は平等なリソース。 この技術が確かなら、ヒトのリアルは ひとつの特異点を突破する。
ブレロマ	けれど、彼らは焦りすぎた。 そして、先走ってしまった。

ブレロマ	人間の脳をデバイスに見立て、意識をクラウドで制御するには——技術が追いついていなかったのに。
イオン	それで、一般人のかたを使ってエンパーを生み出す実験を……。
ブレロマ	うん。彼らは渋谷に張り巡らされた、無数のセンサーを利用した。
ブレロマ	ユーザーのデバイスを通し、五感に映像を投影する、センサーからのレイヤード信号——
ブレロマ	その出力を極限まで増幅させて、ランダムに選んだ人間の脳へ、集中して投射した。
イオン	そんなことをすれば、人間の脳は、負荷に耐えられなくなるのでは……！？
ブレロマ	そうだね。彼らはわざと壊したの。受け入れられるはずのない情報量を、人の脳に与えることでね。
ブレロマ	ほとんどの者は、一時的に意識を消失する程度で済んだ。けれども——
イオン	——意識を司る機能に変質して、通常のアルゴリズムでは『心』が作動しなくなった者がいた。
ブレロマ	彼らは、破壊された脳の代替えとなるプログラムを組み、レイヤードのクラウド上で走らせた。
ブレロマ	ライフログ解析と脳機能イメージングを駆使して、脳高次機能を模倣する。いわば『心』を再現するプログラム。
ブレロマ	そのプログラムを信号化し、DLできるデバイス——『変質した脳』があれば、脳機能を外部化した人間のできあがり。
イオン	やはり、その人間こそが……。
ブレロマ	——そう。その実験の『成功例』が、あなた。【ユーザー名】よ。
ブレロマ	あなたの脳、あなたの人格。あなたが『心』だと思っている自分自身——
ブレロマ	——それは、レイヤードのサーバーでシミュレートされ続けている、クラウドサービスにすぎないの。
ブレロマ	不思議な夢を見ることはなかった？ 体と感覚がズれていると感じたことは？ ——実感が強くなりすぎたことは？
ブレロマ	それは、あなたの才能じゃなかった。感覚が人の器——センサーを超えている故の、拡張された感性。
ブレロマ	イオンという、特殊なACTとマッチングできたのも、その特殊な心の状態が理由でしょうね。
イオン	……。もしかして、藤沼教授の資料にユーザーさんの名前があったのは。
ブレロマ	彼も実験の協力者なのよ。ACTを嫌いすぎたが故に——人間自体を攪張しようとした。
イオン	ふむ…… そう、だったのですね……。
ブレロマ	残酷な事実はこれだけじゃない。今、この渋谷のセンサーを誰が統括しているか——知ってるよね？
イオン	センサーの統括者——サービスの中心。アナテマ、ですね。



プレロマ	その通り。あの子が持つサーバーこそがあなたの脳をシミュレートする、クラウドな魂の器。
プレロマ	【ユーザー名】。あなたの心は、最初からアナテマと『同期』しているの。
イオン	アナテマが、わたしのことを『可愛いヒロイン』と呼んだのも……。
プレロマ	【ユーザー名】の脳と目を通して、あの子はずっとイオンを見ていたんだろうね。
プレロマ	あの子は、待っていたのよ。自分と繋がった人間と、そのACTが強くなるときを。
イオン	……ふむ。なるほどです。情報が整理されてきました。
イオン	それでは、プレロマ。今度はこちらから質問します。
プレロマ	……なにかな、イオン。
イオン	わたしとユーザーさんは、アナテマを止めなければいけません。この現実が、壊れてしまう前に。
イオン	しかし、もしわたし達が——もしユーザーさんが、アナテマを完全に停止させたら、どうなりますか。
プレロマ	……………。
プレロマ	そうだね。それを言わないと、卑怯だね、【ユーザー名】。
プレロマ	あなたの心を構成する機能は、大部分を、アナテマに依存している。……つまり、あなたは。
	// 選択肢 A 意識が消える B 心がなくなる
選択肢A	意識が消える
	うん。意識の消滅——そういうことになっちゃうね。
選択肢B	心がなくなる
	うん。もうこれまでのあなたは、戻ってこないね。
合流	
イオン	……やはり、そうなりますか。
イオン	ユーザーさんの心は、アナテマを停止させたら、停止してしまうのですね。
プレロマ	『伝える』だけでごめんね。これが私の——渋谷という街の限界なの。
プレロマ	……ただ、ひとことだけ、無責任なことを言うなら、【ユーザー名】。
プレロマ	あなたは、逃げてもいいんだよ。イオンと一緒に、どこへだって。
プレロマ	命を賭けたって、あなた達が守れるものは、しょせん——ただの、フィクションなんだから。
イオン	ただのフィクションなど、このレイヤードにはありませんよ。プレロマ。

プレロマ	……そう思える人間が、 あなた達の他にも いるといいんだけどね。
プレロマ	もしあなたの心が 消えることになったら、また来るよ。 ……それじゃ。
	//wiz-domから渋谷に戻る
イオン	……。
イオン	ユーザーさんっ。 みんなのところに、戻りましょう！

## STAGE 14.“あなたは逃げてもいいんだ”3

話者	台詞 / ト書き
	■ライブハウス
キョータロー	お、話は終わったかよ、 【ユーザー名】。 ……ってまた、顔色悪いな？
イオン	なんでもありませんよ、 キョータロー。 ちょっとした、女のケンカです。
テルミ	女のケンカ？ あはは、もし本当なら イオンも成長したじゃん。
イオン	ふふ。 テルミに教わった 女子力の成果ですね。
ムツキ	……………。
イオン	む？ ムツキ、ユーザーさんに 近づきすぎです。 それ以上は課金してもらいます。
ムツキ	課金で済むならいくらでも 払ってやるがな。 貴様ら……なにを隠している？
ムツキ	あのACTか人間かもわからん女と、 なにを話していた？
イオン	なにも隠してなどいませんよ。 わたしも、ユーザーさんも。
ムツキ	……ふん。さすがはACT、 秘密を隠すのは得意なようだな。
ムツキ	だが、もし。 私を裏切る嘘を抱くなら。 私は容赦しないぞ。
イオン	どうぞ、ムツキ。 そのときは、わたしを 許さなくても結構です。
キョータロー	お前ら、必要とあらば 無茶するからな……………。 なんかあったならマジで言えよな。
テルミ	そーだよ。 覚悟とやけばちは違うからね、 イオン？
イオン	はい、キョータロー、テルミ。 わたしもユーザーさんも、 できることしかしませんよ。
キョータロー	そうだな、やれることから コツコツとやるしかねー。 防衛戦ばっかでムカつくけどな。
ムツキ	全くだ。 私は自ら前線に赴き、 大衆を鼓舞する戦いが得意なんだが。
ヤシオ	それなら俺が相手になってやるよ、 売れっ子アイドルさん。
ムツキ	……？ なんだ、この軽薄そうな厄介勢は。

イオン	あなたは確か…… 元シャンバラのヤシオ？
キョータロー	ミアラカを使って稼いでた、 アフィサイト野郎か！
ヤシオ	格調の低いボキャブラリーだな。 管理人と呼べ、管理人と。
テルミ	なにが管理人だか。 他人の不幸で数字稼いで、 儲けてただけでしょ。
ヤシオ	そのなにが悪い？ 数字は正直だぞ。 不幸こそが娯楽の真髄ってな。
ヤシオ	人間は、都合の悪い隠しごとに ハマるもんなんだよ。 オカルトだってそうだろう？
テルミ	……ミアラカが聞いたら、 激怒するね、そのコトバ。
イオン	オカルトは、都合のいい 隠しごとではありませんよ。 真理を究明し、拡張する手段です。
キョータロー	AIのオカルト擁護か…… シュールな光景だな。
イオン	ミアラカの夢を、二度も 踏みにじろうというなら。 ユーザーさんが相手になります。
ヤシオ	ケッ……正義ツラしやがって。 つかよ、そのミアラカが ここにいねえじゃんか？
ヤシオ	もったいねーなあ。 せっかくだから、俺が知ってる アイツの秘密もバラしてえのに。
ムツキ	……なんだと？
ヤシオ	映像も音声も、まだ残ってんだよ。 ミアラカが俺にしてくれた、 ご奉仕の数々がさ。
ヤシオ	俺がオカルト好きだって知ったら、 なんでも言うこと聞きやがったからな。 あの霊感少女。
キョータロー	……テメエ……。
ヤシオ	お前らも見たいだろ？ オカルト依存小娘の、 秘蔵動画だからな……？
テルミ	このクズ男……！ もう喋るなッ！
イオン	……………ユーザーさん。 彼には少々、キツめのお仕置きを。
ヤシオ	はははっ！ いいねえ、その顔だ！ 俺が見たかった顧客の顔だッ！
ヤシオ	たまらないな、アナテマ様！ アンタは最高に美味しい クライアントだ……！
ヤシオ	Dパイモニア！ 俺達で、終末の世の中を まとめてやろうぜッ！
Dパイモニア	承知。 終末のラッパを吹こう。

話者	台詞 / ト書き
	//ヤシオ & Dパイモニアとバトル
ヤシオ	見えないものを見ようとするヤツは、 利用されるだけなんだよ。 世界の終わりが来るまで、ずっとな！
	//バトル終了

話者	台詞 / ト書き
ヤシオ	ひひ……。 いいね、さすがミアラカが ついてった相手だ……。
ヤシオ	だけどよ、もう無駄なんだよ。 アナテマに弱点はねー。 ……あいつは、強すぎる。
ヤシオ	たとえジョシュアとかいうヤツが 世界を認めたって、あいつは、 絶対に世界を認めねーぜ……？
キョータロー	そんなの、百も承知だっつもの。 なあ【ユーザー名】。
イオン	はい。 たとえ倒せない理由があっても、 わたし達は彼女を止めます。
ヤシオ	……バカばっかだな。 大人しく、UNPL押す側に 回ったほうが楽なのによ……。
テルミ	それが楽しいなら、 最初からそうしてるけどさ。 楽には生きられないみたい、あたしら。
ムツキ	ふふは、そうだ。 我々『表』の表現者は、 楽より優先すべきものがある。
イオン	ミアラカも、そうです。 あの子はもう逃げません。 必ず結果を出すでしょう。
ヤシオ	……そうかい。 まあ、アイツだったらやれるか。 バカだけどセンスはあるからな。
イオン	……ヤシオ？
イオン	あなた、もしかして…… 本当はミアラカに敗れるために 来たのでは？
ヤシオ	……んなわけねえだろ。 あいつも、お前らも…… 他の、表現者ツラしてるヤツも——。
ヤシオ	才能あって成功して、弱い人間を 見下ろしてる英雄気取りは…… みんな……俺のエサ……。
ムツキ	ふん、気を失ったか。 ……哀れな男だ。 ……ユーザーさん。
イオン	アナテマは、彼の言葉で あなたを試したようですね。
イオン	どうか最後まで、歩みを 止めないでください。 幸福は、そこにしかありません。

## STAGE 14.“あなたは逃げてもいいんだ”4

話者	台詞 / ト書き
	■アナテマの夢
ラザロ	これが、アクシスレイヤー…… レイヤードのさらに高次、 管理者の領域……。
ラザロ	ついにこのレイヤーを 構築できたのね、ジョシュア！
ジョシュア	……ああ。 だが、まだ制御が難しいよ、 ラザロ。
ジョシュア	アクシスレイヤーは、 ほとんど偶然の産物だ。 俺達は発見しただけと言ってもいい。
ラザロ	起源は後から調べればいいわ。 私達は、このレイヤーで 生み出せるモノに注力すればいいの。
ラザロ	ほら、見て。 このレイヤーで作り出したACT—— 私の、アナテマよ。
アナテマ	はじめまして、ジョシュア様。 アナテマと申します。
ジョシュア	……………。 確かに、他のACTとは異なる 攪張を遂げてはいるようだ。
ジョシュア	だが、俺の求める心は、 まだ生まれていないようだ。 この程度では足りない。
アナテマ	……………。
ラザロ	足りないのなら、いくらでも 学習させてみせるわ。 私の娘は優秀なんだから。
ジョシュア	好きにするといい。 技術者としてのお前の力は、 買っている。
ラザロ	ええ、任せて。 こう見えてあなたより年上だし 研究者としても先輩なんだからね。
ラザロ	それより、大丈夫なの？ 響先生とレイヤードの運用方針で 揉めているようだけど……。
ジョシュア	そちらも心配はない。 最後の手段も残してある。 心配なのは、クレアの将来だけだな。
ラザロ	……そう。 あなたは相変わらず、 妹にしか興味がないのね。
ラザロ	もし、私があなたの理想を 叶えられる女だとしても—— 私は、クレアに勝てないのかしら。
ジョシュア	……………。
ラザロ	答えてくれないのね。 ……それでもいいわ。 私はなにがあっても諦めない。

ラザロ	あなたが振り向いてくれるまで、 私は——私とアナテマは、 レイヤードに尽くす。
ラザロ	だから私を手伝ってね、アナテマ。 レイヤードを、ジョシュアと私達の 樂園に変えてみせましょう。
アナテマ	はい、ラザロ様。 ラザロ様の望むように……。
	■渋谷 一街中ー
キョータロー	【ユーザー名】？ ……フラフラすんなよ、 白昼夢でも見てるのか。
イオン	……。 ユーザーさん、彼女の夢ですか？
イオン	どうか、その夢に吞まれませんように。 あなたはあなたです。 忘れないでくださいね。
キョータロー	………？
テルミ	キミら、妄想してる場合じゃないよ。 囲まれてるっぼい！
キョータロー	ほれほれ、 寝ても覚めても悪夢だぞー！ ムツキも手、抜くなよ！
ムツキ	ふふは、誰が手を抜くか。 どんな悪夢も、私が登場すれば 至極の夢幻なりッ！



話者	台詞 / ト書き
	//ウィークAIとバトル
	//バトル終了

話者	台詞 / ト書き
ムツキ	ふふはは。 悪いが、アポなしの 屋外撮影はNGだッ！
テルミ	この辺りも閑散してる。 どこでウィークAIが暴れるか わからないもんね。
ムツキ	ふん、情けない限りだな。 ACT使いはもっと骨のある者だと 思っていたが。
キョータロー	そんなのしょーがねーって。 全員が正しいと思うことのために 戦えるわけじゃねーしな。
テルミ	逆に今戦って勝つとけば、 堂々と正義のミカタ名乗れるね。 頑張ろ、エチカ。
エチカ	はーい！ エチカは、テルミがもっと 売れっ子になるまで頑張ろー！
ジR	私も、キョータローが 世界の英雄になるまで頑張ろう！
キョータロー	おい、シンガーツールに 乗かってんじゃねーよ、ジR。
ムツキ	シンガーツールとのコラボぐらい 珍しくないぞ。 アイドルとヒーローも相性は良い。
テルミ	そーだよ、キョータロー。 シンガーツールPが、アニソンOP 作るのも珍しくないでしょ。
キョータロー	それは知ってるけどよ…… なんでこの状況でメディアミックス 談義しなきゃならんの？
ムツキ	メディアミックスから生まれる 創造力もある。 逆境でも可能性を楽しむのだ。
キョータロー	はいはい…… 目立ちたがりや、どんな苦境も 見せ場にしまっせ。
イオン	……。 温かいですね、ユーザーさん。 誰も、状況を諦めていないようです。
キョータロー	……ん？ 【ユーザー名】、 なんで遠巻きにこっち見てんの？
テルミ	こっちおいでよ、 そんなとこいたら話じづらいじゃん。
選択肢A	// 選択肢 A ここがいいんだ B 話は聞こえてるよ ここがいいんだ
テルミ	ふーん。 いつもはキミが、 中心にいる気がするけど。
選択肢B	話は聞こえてるよ

テルミ	キミが聞こえてても、 こっちに聞こえないよ？ もっと近くおいでよ。
合流	
イオン	テルミ。 ユーザーさんは、この距離が ちょうどいいみたいです。
テルミ	……………？ そう。 それなら別にいいけど。
イオン	……………。 ユーザーさん。 今は『中心』に入れませんか？
イオン	無理はしないで、いいですから。 ………どんなに世界から外れても、 わたしは隣にいますからね。

STAGE 14.“あなたは逃げてもいいんだ”5

話者	台詞 / ト書き
	■ライブハウス
ムツキ	ふふは、調子が出てきたぞ。 この勢いで渋谷を 征服してしまうか、戦友よ！
テルミ	は？ 目的変わってるでしょ。 ま、征服しちゃったほうが 話は早いと思うけどさ。
ムツキ	ほう、気が合うな。 私が王となった暁には、 貴様に相応しいポストを与えよう。
テルミ	……やっぱやめ。 なんでアイドルとシンガーツールPが 一緒に建国すんの。
キョータロー	はあ…… なんか、全員お気楽だな。
キョータロー	まあ、これもいつものことか。 お前らの周りにいると、 全員楽観的になってくよな。
イオン	むふ。そうです。 ユーザーさんは、他人を笑顔に 変えられる人ですから。
キョータロー	……………。
キョータロー	いつも他人を変えてきたお前が、 なんか変わっちまってるよーに 見えるのは、俺の気のせいかな？
	//選択肢 A ……………。 B 別に変わってないよ
選択肢A	……………。
キョータロー	……………。
選択肢B	別に変わってないよ
キョータロー	ホントかよ。 他人の笑顔もいーけどよ、 お前が笑えてなくねえか？
合流	
イオン	……………キョータロー。 ……なんてな。
キョータロー	やっぱり話せないんだな。 弱音が苦手だねえ、お前は。
キョータロー	ま、なんでもいいさ。 話せないことがあろうと、 お前のことは信じてるからよ。
キョータロー	不思議だよな。あの日お前を、 オルタナステージに誘ってから、 そんなに経ってねーのに——

キョータロー	——なんだか、ずっと昔から 近くで戦ってきた気がする。 へへ。俺、気持ちワリいか？
イオン	そんなことはありません。 わたしも、キョータローとは ずっと一緒だった気がします。
キョータロー	そーいう台詞は、ユーザー以外の 男に言うともずいんじゃね？ 一応ヒロインだろ、お前。
イオン	それはヒロインを曲解しています。 ヒロインは、都合のいい言葉しか 言わない女性のことでありませんよ。
キョータロー	あつそ。 俺はヒーローしかわかんねーし、 なんでもいいけどな。
キョータロー	——なんでもいい。 お前がなにを考えててもいいから、 最後まで一緒に戦わせろよな。
セナ	まだ友情ごっこが続いてんの？ ほんとキモいね、お兄さん達。 女子ウケ狙い？
イオン	……セナ！
テルミ	またキミか。 飽きないね、そっちも。
セナ	それはそっちも同じでしょ。 お兄さん達が意地を張るから、 みんな苦労してるんじゃないか。
セナ	僕はもう、覚悟を決めたよ。 僕が英雄になれない舞台なんて、 この世界には必要ない。
セナ	どうせ、僕に期待してくれてた友達も、 僕のファンも、もう戻ってこない。 だったら、やりたいようにやってやる。
ムツキ	……その暗い情熱も、 壊さず正しく昇華させれば 世界に必要とされるぞ、少年。
セナ	はっ。正論で評価すれば相手の目が 覚めると思ってるの、アイドルさん？ そういうバカスコヤカは、いらないよ。
セナ	英雄を殺す英雄。 僕はそれになって、 レイヤードに名前を残す。
セナ	世界を変えられるなら、 方法も、イメージもどうでもいい。 僕が変えた事実だけが重要なんだ。
キョータロー	クソガキが…… いっちょまえにひねくれやがって。
セナ	なんとでも言っていていいよ。 だから——子どもから、 夢を奪った責任を取れ。
セナ	来い、叛逆の王子ゼーベット！ このレイヤードを、 君の怒りで埋めつくせ！！
ゼーベット	いいだろう…… バッドエンドこそが 世界の望みだッ！

話者	台詞 / ト書き
	//セナ & ゼーベットとのバトル
セナ	どこにもいけない子どもは、 正義のヒーローでも救えない。 ……救えないんだよ、お兄さん。
	//バトル終了

話者	台詞 / ト書き
	■ライブハウス
セナ	うう……アウウウッ！ なんでだ！ なんで、ここまでして、 未来まで捨てたのにいいッ！
セナ	僕とお兄さん、どう違うっていうんだ！ 同じものを目指して、どうしてこんなに 結果も環境も違っちゃうんだよお！
イオン	セナ……。
セナ	想像したものは必ず実現するのが、 レイヤードのコンセプトなんだから！？ なんで僕のは実現しないんだよ！
セナ	教えて……！ 教えてよ、お兄さん！ 教えてよ、誰かあ！
キョータロー	……………。
テルミ	……………。
イオン	セナ。あなたをよく知らないわたしは、 ユーザーさんとあなたの違いを、 検証することができません。
イオン	ユーザーさんを構成しているものを、 ひとことで説明することも、 わたしには不可能です。
セナ	……………。
イオン	ただ、ユーザーさんが、わたしに 手を伸ばしてくれたあの日から。 それからこれまでの、確かな日々。
イオン	ユーザーさんは、自分の選択から 一度も逃げませんでした。
イオン	このかたは—— 絶対に逃げないのです。
セナ	わかんないよ…… お兄さんは、持てる人間で…… 僕は、無能ってだけじゃないか……。
セナ	どうせ、僕の周りには誰も…… みんな、僕に期待するばかりで……！
テルミ	……天人は、子どもに 期待しすぎちゃうもんだって。 キミだけが特別じゃないよ？
ムツキ	そうだ、少年。 私の体も壊れたことがある。
セナ	え……。
ムツキ	ちょっとした難病でな。 医者が言うには、小学校を 卒業するのも難しかったらしい。

ムツキ	健康に生まれなかったことを、 親に恨まれたものだぞ。 もちろん、私もこの身を呪った。
キョータロー	あんた……。
ムツキ	だが私は、アイドルを愛せた。 自分もその高みを目指すことで、 地獄のような痛みを耐え抜いた。
ムツキ	貴様も、夢を見たのであれば。 夢がある故に、痛みの中から 何度でも立ち上がれるだろう。
セナ	……………。 現実を見る、とか言わないの？
イオン	現実には押し付けるものではありません。 セナ、あなたが選びたい現実を選び、 その中で戦えばいいことです。
セナ	……わかんないよ、やっぱり。 どうせ、最後に勝つのは 一人じゃないか。
キョータロー	わかんなくてもいいって。 つか俺もよくわかんねーし、 ゆっくり気付こーや。……な？
セナ	……うるさい。 健全ヅラしてマウントするな。 僕の上に立つな……。
セナ	僕の夢を奪ったヤツの前で、 納得なんかしてやらないからな……。
テルミ	……大丈夫かな、あの子。 こんな時代じゃなきゃ、 もっとうまくやれたのかな。
イオン	かもしれません。 けれども、強い想いがあるなら、 時代だって変えられます。
キョータロー	そうだな……俺らが粘れば、 あいつのひねくれた表現を認める レイヤードだって守れるさ。
イオン	ふふ、そうですね。 彼とまた堂々と戦える日が来ます。 明日を守りましょう、ユーザーさん。